

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういいじめのない環境をつくる。
---------	--

教科の目標	○日常で使用する国語的な基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。（知識及び技能） ○国語的な思考力・判断力を養い、文章作成や読解に役立てることができる。（思考力、判断力、表現力等） ○自主的・意欲的に、情報を調べ、取捨選択し、活用する能力や態度が身につく。（学びに向かう力、人間性等）
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
論理国語	2	全日制・普通科・2学年	論国708 論理国語(数研)

科目の目標	○ 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。（知識及び技能） ○ 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。（思考力・判断力・表現力等） ○ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。（学びに向かう力人間性等）
-------	---

時期 月 週	単元名		指導 時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科等 横断的な視点等
4月	弱いつながり	B読むこと	6	① 知識・技能 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。〔(1)ア〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している〔B(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	記述の点検 (ノート)	・意味段落のまとまりを意識して読み、各段落の内容、および文章全体の構成をとらえる。 ・筆者の言う「弱い絆」をつくるにはどうしたらよいか、自分の考えをまとめる。	筆者の主張を読み取り、現代社会の傾向をふまえて筆者がどのように主張する理由を考察する。	
5月	手の変幻	A書くこと B読むこと	6	① 知識・技能 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。〔(1)ア〕 ② 思考・判断・表現 「書くこと」において、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫している。〔A(1)ウ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 課題テーマについて積極的に自分の考えを深め、文章内容を参考にしながら、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。	記述の確認	・文章中の抽象的な表現の内容を踏まえ、筆者の「芸術」についての考え方に対する自分の考えを述べる。 ・逆説的な表現の内容を理解する。	筆者の逆説的言説を理解したうえで、異なる事例を考え、論理的に説明する。	
6月	「内的成長」社会へ	B読むこと	6	① 知識・技能 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。〔B(1)オ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	行動の確認	・現代日本社会における「中間社会」の現状と課題を読み取る。 ・哲学的な意味を持つ語句について、その内容を理解する。	論理的な文章を読んで、筆者の考えに合う具体例を考え発表する。	
7月	【探究の扉】 ニュースとコミュニケーション	B読むこと	6	① 知識・技能 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。〔(1)ア〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。〔B(1)キ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 筆者の意見を参考にしながら、積極的に根拠や具体例を用いて文章を構成し、学習課題に沿って自分の意見をまとめようとしている。	記述の確認	・言葉の性質についての筆者の考えを読み取る。 ・筆者の主張を踏まえ、事物を抽象的にとらえることの利点がわかる具体的事例を日常生活の中から考える。	論理的な文章を読んで、筆者の考えに合う具体例を考え発表する。	
9月	未来世代への責任	B読むこと	8	① 知識・技能 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。〔(2)ア〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。〔B(1)カ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	記述の確認	・対談の文章を読み、それぞれの考えの共通点を読み取る。 ・「桶」という比喻に込められた意図について考える。	論理的な文章を読み、筆者の考えを踏まえて自分の意見を書く。	
				① 知識・技能 推論の仕方について理解を深め使っている。〔(2)ウ〕	行動の確認	・「メディア」と「スポーツ」の関係から活動の総体としての「社会」を導くという文章展開をとらえる。 ・文章中の比喩表現や強調表現	論理的な文章を読み、筆者の考えをふまえて話し合う。	

10月	消費されるスポーツ	B読むこと	7	② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。〔B(1)イ〕		・人々の精神状態や表現の内容を理解する。 ・文章内容をWEB記事の内容と関連づけて考察する。		
				③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。				
11月～12月	報告書を書く	A書くこと	6	① 知識・技能 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。〔(1)エ〕	行動の確認	・人々の精神状態を「安楽への隷属」と表現する筆者の意図を読み取る。 ・筆者の考えを踏まえ、現代社会についての自分の考えを具体例とともに論述する。	現代社会の状況を分析し、文章構成を工夫して自分の意見を述べる。	
				② 思考・判断・表現 「書くこと」において、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫する。〔A(1)ウ〕				
				③ 主体的に学習に取り組む態度 課題テーマについて積極的に自分の考えを深め、文章内容を参考にしながら、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。				
12月～1月	「安楽」への全体主義	B読むこと A書くこと	6	① 知識・技能 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。〔(1)エ〕	行動の確認	・人々の精神状態を「安楽への隷属」と表現する筆者の意図を読み取る。 ・筆者の考えを踏まえ、現代社会についての自分の考えを具体例とともに論述する。	現代社会の状況を分析し、文章構成を工夫して自分の意見を述べる。	
				② 思考・判断・表現 「書くこと」において、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。〔A(1)イ〕				
				③ 主体的に学習に取り組む態度 調査内容の整理とともに課題を粘り強く検討し、報告書の形式に沿って調査結果を明確に示そうとしている。				
2月～3月	現代日本の開化・漱石が生きた時代	A書くこと	7	① 知識・技能 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。〔(2)ア〕	記述の確認	・夏目漱石の講演録と、漱石の時代について考察した文章を関連づけて読む。 ・時代背景が人間や作品に与える影響について考え、論述する。	二つの文章の内容を踏まえて、自分の考えをまとめる。	
				② 思考・判断・表現 「書くこと」において、実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めている。〔A(1)ア〕				
				③ 主体的に学習に取り組む態度 課題テーマについて積極的に自分の考えを深め、文章内容を参考にしながら、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。				
領域ごとの指導時間数の計	話すこと・聞くこと		0					
	書くこと		25					
	読むこと		45					
指導時間数の合計			70					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういいじめのない環境をつくる。
---------	--

教科の目標	○国語的な基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。（知識及び技能） ○国語的な思考力・判断力を養い、文章作成や読解に役立てることができる。（思考力、判断力、表現力等） ○自主的・意欲的に、情報を調べ、取捨選択し、活用する能力や態度が身につく。（学びに向かう力、人間性等）
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)			
古典探究		3	全日制・普通科・2学年		古探708／精選 古典探究(大修館)			
科目の目標			・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。					
時期 月 週	単元名	領域	指導 時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科 等横断的な視 点等
4月 2週目 ～ 5月 2週目	上代文学の流れ 中古文学の流れ 中世文学の流れ 古典文法	読むこ と	12	① 知識・技能 ・文学史の基礎的・基本的な知識・技能を身に つけている。 ② 思考・判断・表現 ・作品の成立した背景や他の作品などとの関係 を踏まえながら古典などを読み、その内容の解 釈を深め、作品の価値について考察している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後 の学習に生かそうとしたりしている。	・ 考査 ・ 考査 ・ 提出物	ワークシート	鑑賞文の作成 グループワーク	文学史 古典文学作品 系統図 文法書
5月 3週目 ～ 4週目	説話	読むこ と	6	① 知識・技能 ・文学史の基礎的・基本的な知識・技能を身に つけている。 ② 思考・判断・表現 ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注 意して内容を的確に捉えている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後 の学習に生かそうとしたりしている。	・ 考査 ・ 考査 ・ 提出物	ワークシート	鑑賞文の作成 グループワーク	『宇治拾遺物 語』(検非違使 忠明のこと)
6月 1週目 ～ 7月 1週目	故事 逸話	読むこ と	13	① 知識・技能 ・文学史の基礎的・基本的な知識・技能を身に つけている。 ② 思考・判断・表現 ・古典の作品や文章について、内容や解釈を自 分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたり している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後 の学習に生かそうとしたりしている。	・ 考査 ・ 考査 ・ 提出物	ワークシート	要約文の作成 グループワーク	知音 画竜点睛 漱石枕流 塞翁馬
7月 2週目 ～ 9月 3週目	随筆 和歌 歌物語	読むこ と	15	① 知識・技能 ・文学史の基礎的・基本的な知識・技能を身に つけている。 ② 思考・判断・表現 ・古典の作品や文章などに表れているものの見 方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自 然などに対する自分の考えを広げたり深めたり している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後 の学習に生かそうとしたりしている。	・ 考査 ・ 考査 ・ 提出物	ワークシート	朗読 グループワーク	『徒然草』 (家居のつき づきしく) 『方丈記』 (ゆく川の流れ) 『伊勢物語』 (初冠) 『大和物語』 (をばすて)
9月 4週目 ～ 10月 2週目	漢詩	読むこ と	10	① 知識・技能 ・文学史の基礎的・基本的な知識・技能を身に つけている。 ② 思考・判断・表現 ・関心をもった事柄に関連する様々な古典の作 品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ 方、考え方を深めている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後 の学習に生かそうとしたりしている。	・ 考査 ・ 考査 ・ 提出物	ワークシート	鑑賞文／エッセイの作成 グループワーク	「竹里館（王 維）」 「峨眉山月歌 （李白）」 「登岳陽樓 （杜甫）」 「勸酒（于武 陵）」 「咸陽城東樓 （許渾）」
10月 3週目 ～ 11月 3週目	随筆 物語	読むこ と	15	① 知識・技能 ・文学史の基礎的・基本的な知識・技能を身に つけている。 ② 思考・判断・表現 ・必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉 えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展 開、表現の特色について評価している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後 の学習に生かそうとしたりしている。	・ 考査 ・ 考査 ・ 提出物	ワークシート	報告書の作成 グループワーク	『枕草子』 (すさまじき もの、中納言 参りたまひ て) 『源氏物語』 (光源氏の誕 生、藤壺の入 内)
11月 4週目 ～ 12月 3週目	史伝(漢文)	読むこ と	10	① 知識・技能 ・文学史の基礎的・基本的な知識・技能を身に つけている。 ② 思考・判断・表現 ・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的 確に捉えている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後 の学習に生かそうとしたりしている。	・ 考査 ・ 考査 ・ 提出物	ワークシート	発表・議論 グループワーク	『史記』本紀 (鴻門之会、 項王の最期)
1月 2週目 ～ 2月 2週目	日記 軍記物語	読むこ と	12	① 知識・技能 ・要約に必要な情報を取捨選択し、文章構成に 役立てることができる。 ② 思考・判断・表現 ・古典の作品や文章について、内容や解釈を自 分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたり している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後 の学習に生かそうとしたりしている。	・ 考査 ・ 考査 ・ 提出物	ワークシート	報告書の作成 グループワーク	『土佐日記』 (羽根) 『更級日記』 (門出) 『平家物語』 (能登殿最 期)
				① 知識・技能 ・文学史の基礎的・基本的な知識・技能を身に つけている。	・ 考査			『論語』（賢 哉回也、行不 由徑）

2月 3週目 ～ 3月 3週日	思想(漢文) 日本の漢詩	読むこ と	12	② 思考・判断・表現 ・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。	・ 考査 ・ 提出物	ワークシート	鑑賞文の作成 グループワーク	『孟子』（不忍人之心） 『荀子』（人之性悪） 『韓非子』（侵官之害） 「題自画（夏目漱石）」
領域ごとの指導時間数の計	話すこと・聞くこと							
	書くこと							
	読むこと		105					
指導時間数の合計			105					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) 世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深める。
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
地理探究		2	全日制・普通科・2学年(Ⅱ類)		新詳地理探究(帝国書院)		
科目の目標		地理学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために、社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点とそれを活かして解決すべき課題を設定し、その課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化が進み国際理解の必要性が増している現代において、主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力を培う。					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	第1章 自然環境 1節 地形 2節 気候	7	① 知識・技能 さまざまな地形には、どのような特徴や成因があり、人間活動とどのように関わっているかについて理解している。気候の違いは、どのような要因で生まれ、人々の生活にどのような影響を与えているかについて理解している。	定期考査	・地形の特徴や人々との生活との関りについて学ぶ。 ・気候の違いや、人々の生活との関りについて学ぶ。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	理科
			② 思考・判断・表現 地球規模のさまざまな地形や気候の違いは、どのような要因で生まれ、人々の生活にどのような影響を与えているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 地形について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	授業態度			
5月	第1章 自然環境 3節 日本の自然環境 4節 地球環境問題	7	① 知識・技能 日本列島の多様な自然環境について持続可能な社会をつくり出すためには、どのような考え方で、どのような取り組みをすればよいかについて理解している。	定期考査	・日本の自然環境について学ぶ。 ・地球規模の環境問題について学び、私たちにできることを考える。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	理科
			② 思考・判断・表現 日本列島の地形や気候など多様な自然環境にはどのような特徴があり、自然災害とどのように関係しているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 さまざまな地球環境問題を解決して、地球と人類が共存できる持続可能な社会をつくり出すためには、どのような考え方で、どのような取り組みをすればよいかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 地球環境問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	授業態度			
6月	第2章 資源と産業 1節 農林水産業 2節 食料問題	7	① 知識・技能 農林水産業の分布や発達には、どのような傾向や規則性がみられるかについて理解している。 食料の分配の世界的な偏りや、飽食や飢餓がみられる地域とその原因は何かについて理解している。	定期考査	・農林水産業の分布や発達、課題について学ぶ。 ・食糧問題について考える。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 農林水産業の分布や発達には、どのような傾向や規則性がみられるかについて、考察し、表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 農林水産業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	授業態度			
7月	第2章 資源と産業 3節 エネルギー・鉱産資源 4節 資源・エネルギー問題	7	① 知識・技能 これまでの資源・エネルギー問題の考え方に 対し、今後、資源・エネルギー問題を解決し、 持続可能な社会を実現するためには、どのよう な考え方が必要かについて理解している。	定期考査	・世界のエネルギー・鉱産資源がどのように生活や産業に 利用されているのか、考え る。 ・持続可能な社会を実現する ためにどのようにすればよい か考える。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	理科
			② 思考・判断・表現 これまでの資源・エネルギー問題の考え方に 対し、今後、資源・エネルギー問題を解決し、 持続可能な社会を実現するためには、どのよう な考え方が必要か考察し、表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 エネルギー・鉱産資源について、よりよい社会 の実現を視野にそこでみられる課題を主体的 に追究しようとしている。 資源・エネルギー問題について、よりよい社会 の実現を視野にそこでみられる課題を主体的 に追究しようとしている。	授業態度			

9月	第2章 資源と産業 5節 工業 6節 第3次産業	7	① 知識・技能 さまざまな製品を生み出し、人々の生活や産業の発展を支えてきた工業はどのように発展し、現在はどのような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているかについて理解している。 ② 思考・判断・表現 工業はどのように発展し、現在はどのような工業分野や地域が中心となり、どのように変わろうとしているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 工業について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。 第3次産業について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査 レポート 授業態度	・産業はどのように発展し、現在はどのように変わろうとしているかについて考察する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
10月	第3章 交通・通信と観光、貿易 1節 交通・通信	7	① 知識・技能 社会や経済を大きく変化させた交通網や通信網の発達には、なぜ傾向や地域性、地域間格差が現れているかについて理解している。 ② 思考・判断・表現 社会や経済を大きく変化させた交通網や通信網の発達には、なぜ傾向や地域性、地域間格差が現れているかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 交通・通信について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査 レポート 授業態度	・交通・通信について、よりよい社会の実現について必要なことを考える。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	情報
11月	第3章 交通・通信と観光、貿易 2節 観光 3節 貿易と経済圏	7	① 知識・技能 観光産業などを盛んにしようとする取り組みや、観光の特徴や利点、課題について理解している。 拡大を続けている世界の貿易では、地域性や地域間格差が現れてきている理由について理解している。 ② 思考・判断・表現 日本での観光産業などを盛んにしようとする取り組みや、観光の特徴や利点、課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。 拡大を続けている世界の貿易では、地域性や地域間格差が現れてきているのはなぜかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 観光について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。 貿易と経済圏について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究している。	定期考査 レポート 授業態度	・観光産業での取り組みについて理解する。 ・貿易圏の拡大に伴う課題について考察する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	英語
12月	第4章 人口、村落・都市 1節 人口 2節 人口問題	7	① 知識・技能 社会情勢や文化などのさまざまな要因によって異なる世界各国・各地域の人口規模・分布や、先進国と発展途上国の出生率の高低や高齢化の進行の違いについて理解している。 ② 思考・判断・表現 社会情勢や文化などのさまざまな要因によって異なる世界各国・各地域の人口規模・分布や、先進国と発展途上国の出生率の高低や高齢化の進行の違いについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 人口について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。 人口問題について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査 レポート 授業態度	・世界各国・各地域の人口問題について、よりよい社会の実現に向け課題解決策を考える。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
1月	第4章 人口、村落・都市 3節 村落と都市	7	① 知識・技能 村落や都市の立地や発達、形態、変容のしかたにみられる傾向や規則性、国や地域によって異なる地域性について理解している。 ② 思考・判断・表現 世界の都市が持続的に発展していくための課題、日本の都市の課題と解決するための取り組みについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 都市・居住問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査 レポート 授業態度	・都市が持続的に発展していくための課題と取り組みについて、理解する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
2月～3月	第4章 人口、村落・都市 4節 都市・居住問題	7	① 知識・技能 世界の都市が持続的に発展していくための課題、日本の都市の課題と解決するための取り組みについて理解している。 ② 思考・判断・表現 世界の都市が持続的に発展していくための課題、日本の都市の課題と解決するための取り組みについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 都市・居住問題について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査 レポート 授業態度	・都市・居住問題について、よりよい社会の実現を視野に課題解決策を考える。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
指導時間数の計		70					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
日本史探究		2	全日制・普通科・2学年(Ⅱ類)		詳説日本史(山川出版社)		
科目の目標		社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月	第1章 日本文化のあけぼ の 1 文化の始まり 2 農耕社会の成立	6	① 知識・技能 日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解している。	定期考査	・打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成り立っていることに気づく。 ・大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 小国の形成について、環濠集落や武器の出現、「魏志」倭人伝などの文献資料にもとづき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化や縄文文化の特色を明らかにしようとしている。	授業態度			
4月～ 5月	第2章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷	6	① 知識・技能 国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。	定期考査	・地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 ・ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 中国の歴史書の記事、小国の王墓の副葬品などをもとに、中国・朝鮮との交渉や、小国の形成過程について多面的・多角的に考察し、表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、小国の形成について考察することを通じ、古墳文化の展開とのつながりを見出そうとしている。	授業態度			
5月 ～6月	第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容	10	① 知識・技能 隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解している。	定期考査	・律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 ・律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。 天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。 ・平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 天智朝・天武朝・持統朝の政治動向に着目して、律令体制整備の過程について考察し、表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 隋・唐などの中国王朝から導入された文化を考察し、政治や社会の動きとのつながりを見出そうとしている。	授業態度			
7月	第4章 貴族政治の展開 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	6	① 知識・技能 藤原北家が権力を掌握していく過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。	定期考査	・藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。 ・摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察する。 ・地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について、源氏などを例にとって考察する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 古代との比較などを通して、中世では同じ時期に政治的な力をもつ勢力が複数存在していたことなど、中世の特色を探究しようとしている。	授業態度			
9月	第5章 院政と武士の躍進 1 院政の始まり 2 院政と平氏政権	4	① 知識・技能 貴族政治や土地制度の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。	定期考査	・院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ・政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 中世社会の特色について多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現し、追究しようとしている。	授業態度			

10月	第6章 武家政権の成立 1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化	10	① 知識・技能 諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。 ② 思考・判断・表現 宋・元との交流の窓口や貿易の担い手などを視野に入れて、ユーラシアとの交流を多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 鎌倉時代の宗教や文化にみられる平安時代からの特徴の継承や差異について、主体的に追究しようとしている。	定期考査	・鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ・承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。 ・モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。 ・庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
11月	第7章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場	10	① 知識・技能 鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開と琉球王国の成立などについて、諸資料から情報を収集して理解している。 ② 思考・判断・表現 室町時代の文化の特徴と、当時の政治や経済の動向との関係を多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 15世紀から16世紀にかけて争乱が多発した理由など、戦国時代を中心とする歴史の展開に関わる課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査	・南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ・諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。 ・応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
12月	第8章 近世の幕開け 1 織豊政権 2 桃山文化	4	① 知識・技能 守護大名と戦国大名の権力の相違点などについて諸資料から情報を読み取り、戦国時代の大名による領国経営の特徴を理解している。 ② 思考・判断・表現 織豊政権の諸政策の目的や、ヨーロッパ諸国の進出がアジアに与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 桃山文化の特色について、中世文化の特色との比較を通じて、その類似と差異を見出そうとしている。	定期考査	・織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。 ・大航海時代と呼ばれる世界的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ・新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
1月	第9章 幕藩体制の成立と展開(1) 1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造	6	① 知識・技能 織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化などに着目して、諸資料をもとに江戸幕府の法や制度の確立や対外政策の推移について理解している。 ② 思考・判断・表現 織豊政権と幕府の支配の構造の相違点や、江戸幕府による貿易統制の意義について多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 幕藩体制が確立する過程における様々な画期について考察し、主体的に追究しようとしている。	定期考査	・江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。 ・江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
2月～3月	第9章 幕藩体制の成立と展開(2) 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化	8	① 知識・技能 諸資料から情報を適切に読み取り、文治政治への転換から元禄時代・正徳期に至る政治の推移について理解している。 ② 思考・判断・表現 陸上・水上における交通や流通の発達と、農業・工業・商業などの発達との関連を多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 幕藩体制が安定していく中での経済の動向と上方の豪商との関係性を踏まえ、17世紀の文化の特色を明らかにしようとしている。	定期考査	・17世紀後半から18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。 ・幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。 ・経済の発展と関連して町人文化が形成されたことについて、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
指導時間数の計		70					

6月～ 7月	第2章 公共的な空間における基本 原理 第1節 民主社会の基本原 理 第2節 日本社会の基本原 理	10	① 知識・技能 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解できている。 ・日本国憲法の基本原理や保障されている権利が理解できている。 ② 思考・判断・表現 ・このような基本的原理を考察することによって、個人と社会との関わりを多面的・多角的に考察することができている。 ・日本国憲法の基礎にある考え方に着目し、公共的な空間における基本的原理との関連を考察することができている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・民主政治が自らの生活とかかわっていることを理解し、民主社会に主体的に生きる人間のあり方生き方について思索を深められている。 ・日本国憲法で保障されている権利が理解でき、自らの生き方と権利を結びつけることができている。	定期考査 レポート 授業態度	○人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理、日本国憲法の基本原理や保障されている権利を理解する。 ○個人と社会との関わりを多面的・多角的に考察する。日本国憲法の基礎にある考え方に着目し、公共的な空間における基本的原理との関連を考察する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
9月	第3章 ルールをつくり守る私たち 第1節 法と契約 第2節 司法参加の意義	6	① 知識・技能 ・法や規範の意義や役割が理解できている。 ・公正な裁判には司法権の独立が必要であり、国民の参加が大切であることが理解できている。 ② 思考・判断・表現 ・日常の買い物や銀行のクレジットカードなど、身近な契約の例を挙げることができる。 ・裁判員制度がどのような目的で創設されたかを考察できている。 ・裁判によって国民のどのような権利が守られているのか考察できている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身近な紛争状況を設定し、それを解決するためのルール作りを体験的に行うことができる。 ・模擬裁判などを通して、司法に関心を持ち裁判員制度の意義をふまえ積極的に参画する自覚を持つことができている。	定期考査 レポート 授業態度	○法や規範の意義や役割、公正な裁判には司法権の独立が必要であり、国民の参加が大切であることを理解する。 ○日常の買い物や銀行のクレジットカードなど、身近な契約の例を挙げる。 ○裁判員制度がどのような目的で創設された、裁判によって国民のどのような権利が守られているのか考察する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
9月～ 10月	第4章 政治に参加する私たち 第1節 政治参加と民主政治の課題	4	① 知識・技能 ・地方自治や選挙の仕組み、政党の役割を考察することによって具体的に民主政治を支える制度を理解できている。 ② 思考・判断・表現 ・選挙制度の違いによって、政党制にも大きな違いがでてくることを考察できている。 ・自分が理想とする選挙制度を選択することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・模擬投票などを通して、選挙に積極的に参加するなど主権者としての自覚を持つことができている。	定期考査 レポート 授業態度	○具体的に民主政治を支える制度、国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割、国際連盟・国際連合の組織と役割、冷戦の成立とその終結後の国際政治の流れ、国際社会の中で平和主義を掲げる日本の役割、核軍拡から核軍縮への流れ、現代の世界の紛争や人権問題について理解する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
10月	第4章 政治に参加する私たち 第2節 国際政治の動向	3	① 知識・技能 ・国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割が理解できている。 ・国際連盟・国際連合の組織と役割が理解できている。 ・冷戦の成立とその終結後の国際政治の流れが理解できている。 ② 思考・判断・表現 ・集団的安全保障がなぜ有効なのか考察できている。 ・国連の現状と課題について考察できている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・日々報道される世界の国際紛争に関心が持てている。 ・それぞれの紛争の解決への筋道は何か提示することができている。	定期考査 レポート 授業態度	○選挙制度の違いによって、政党制にも大きな違いがでてくること、集団的安全保障がなぜ有効なのか、国連の現状と課題について考察する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
10月～ 11月	第4章 政治に参加する私たち 第3節 国際政治の課題と日本の役割	6	① 知識・技能 ・国際社会の中で平和主義を掲げる日本の役割が理解できている。 ・核軍拡から核軍縮への流れが理解できている。 ・現代の世界の紛争や人権問題について理解できている。 ② 思考・判断・表現 ・留学生や国際 NGO と接することにより、国際化を身近に体験し、国際社会の諸問題について判断できている。 ・国際問題について自分なりの意見を持ち、他者に説明できている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・民族紛争や難民問題など国際政治問題について日常から関心を持てている。 ・留学生や国際 NGO と接することにより、国際化を身近に体験し、国際社会の諸問題について主体的に追究できている。	定期考査 レポート 授業態度	○留学生や国際NGOと接することにより、国際化を身近に体験し、国際社会の諸問題について判断できている。 ○国際問題について自分なりの意見を持ち、他者に説明する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	

11月～ 12月	第5章 経済活動を行う私たち 第1節 経済のしくみと産業 の変化	7	① 知識・技能 ・現代の企業の果たしている役割が理解できて いる。 ・中小企業や農業の果たしている役割と現状を 理解できている。 ・産業構造の変化と職業選択との関係や、雇 用・労働問題について理解できている。	定期考査	○現代の企業の果たしている 役割、中小企業や農業の果た している役割と現状、雇用・ 労働問題、産業構造の変化と 職業選択との関係について理 解できている。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 ・現代の企業倫理について考察できている。 ・経済のサービス化が進展し、国民生活にどの ような変化をもたらしたか考察できている。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・AI や IT などの先端技術が発展するなかで、 自分の進路や職業選択を考えることができてい る。 ・経済社会に主体的に生きる一員として、今後 の日本経済について見通しがたてられている。	授業態度			
12月～ 1月	第5章 経済活動を行う私たち 第2節 市場経済のしくみと 金融	4	① 知識・技能 ・市場経済のメカニズムが理解できている。 ・各種経済指標を理解し、その指標の動向を読 み解くことができている。 ・金融のしくみを理解し、経済状況に応じて適 切な手段を提示できている。	定期考査	○各種経済指標、金融のしく みについて理解できている。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 ・需給曲線を使って、どのような場合に価格が 変動するのか考察できている。 ・GDP が大きいことが豊かさにつながるのかど うか、豊かさについて自分なりに判断できてい る。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・商品の価格は需給関係によって変動するもの もあることを理解し、合理的は消費行動がとれ ている。 ・超低金利時代に生きる一員として、今後の経 済設計がきちんとたてられている。	授業態度			
1月	第5章 経済活動を行う私たち 第3節 財政と社会保障	3	① 知識・技能 ・政府が経済に果たしている役割を理解できて いる。 ・財政のしくみを理解し、経済状況に応じて適 切な手段を提示できている。 ・社会保障について理解できている。	定期考査	○社会保障、貿易や外国為替 のしくみについて理解できて いる。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 自身の老後生活を予想し、租税（支払い）と社 会保障（受取り）とのバランスを考察できてい る。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 日本の経済について課題を発見し、解決する見 通しが持てている。	授業態度			
1月～ 2月	第5章 経済活動を行う私たち 第4節 国際経済の動向と課 題	5	① 知識・技能 ・貿易や外国為替相場について、そのしくみが 理解できている。 ・戦後の国際経済の流れが理解できている。 ・発展途上国の現状を知り、貧困や飢餓などの 原因や課題を理解できている。	定期考査	○貿易や外国為替のしくみ、 戦後の国際経済の流れ、発展 途上国の現状、貧困や飢餓な どの原因や課題を理解できて いる。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 経済のグローバル化と相互依存関係が深まって いることを理解し、それが日本経済にどのよう な影響を及ぼしているかを考察できている。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・自分たちの日常生活が国際経済と不可分であ ることを自覚できている。 ・格差のある国際社会で、その克服のために自 らがどのようなことができるか考え、実行しよ うという意欲を持つことができている。	授業態度			
2月～ 3月	課題探究編 持続可能な社会づくりの主 体とな る私たち 課題探究の観点 課題探究の手引き	7	① 知識・技能 ・現代社会に生きる私たちの課題を指摘できて いる。 ・現代社会の諸問題について、その問題の所 在、現状、問題点などが理解できている。	定期考査	○現代社会の諸問題を多角 的・多面的に考察し、その内 容をレポートや口頭発表など によつて的確に表現できてい る。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 現代社会の諸問題の解決のために、事実を基に 協働して考察、構想することができている。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・さまざまな課題の中で、自己とのかかわりに 注目して主体的に課題を選択し、探究できてい る。 ・それぞれが選択した課題について、今後も継 続して探究しようという意欲を持つことができ ている。	授業態度			
指導時間数の計		70					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(知識及び技能) ○数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。(思考力、判断力、表現力等) ○数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
数学Ⅱ		3	全日制・普通科・2年(Ⅱ類)		新編 数学Ⅱ(数研出版)		
科目の目標		いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月	第1章 式と証明 1 3次式の展開と因数分解 2 二項定理	4	① 知識・技能 ・3次式の展開の公式と因数分解の公式を利用することができる。 ・二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・式の形に着目して変形し、3次式の因数分解の公式を適用する形にすることができる。 ・二項定理をパスカルの三角形と結びつけて考えることができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。 ・ $(a+b+c)^n$ を展開したときの項の係数について、興味をもって調べようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
4月	3 整式の割り算 4 分数式とその計算	4	① 知識・技能 ・整式の割り算の計算方法を理解している。 ・分数式の約分、四則計算ができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・整式の割り算の結果を等式で表して考えることができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・多項式の割り算の計算方法を理解しようとする態度がある。 通分をすることで、約分できる形に適切に式変形をしようとする態度がある。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
5月	5 恒等式	2	① 知識・技能 ・恒等式と方程式の違いを理解している。 ・恒等式となるように、係数を決定することができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・恒等式における文字の役割の違いを認識できる。 ・分数式の恒等式の分母を払った等式が恒等式であることを利用できる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・恒等式の性質を利用して、問題に取り組もうとしている。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
5月	6 等式の証明 7 不等式の証明	6	① 知識・技能 ・恒等式 $A=B$ の証明を、適切な方法で行うことができる。 ・実数の大小関係の基本性質に基づいて、自明な不等式を証明することができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表 レポート	
			② 思考・判断・表現 ・与えられた条件式の利用方法を考え、等式を証明することができる。 ・不等式の証明に実数の性質を利用できるように式変形を考えることができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・比例式を含む等式の証明を通じて、加比の理に興味をもち、考察しようとする。 ・不等式の証明を通じて、三角不等式に興味・関心をもち、それを利用しようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
5月	第2章 複素数と方程式 1 複素数とその計算	3	① 知識・技能 ・複素数、複素数の相等の定義を理解している。 ・複素数の四則計算ができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・共役な複素数を求め、複素数の性質を利用し様々な計算に活用できる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・2次方程式が常に解をもつように考えられた複素数に興味・関心を示し、考察しようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
			① 知識・技能 ・2次方程式の解の公式を利用して、2次方程式を解くことができる。 ・判別式を利用して、2次方程式の解を判別することができる。 ・解と係数の関係を使って、対称式の値や2次方程式の係数を求めることができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	

6月	2 2次方程式の解 3 解と係数の関係	6	② 思考・判断・表現 - 判別式Dの代わりにD/4を用いても解の種類を判別できることを理解し、積極的に用いようとする。 2次方程式の解の符号に関して、解と係数の関係を利用して考察することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 2次方程式の解が虚数になる場合もあることに興味を示し、2次方程式の解を考察しようとする。 2次式を複素数の範囲で因数分解することに興味をもち、問題に取り組もうとする。	定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り			
6月	4 剰余の定理と因数定理 5 高次方程式	6	① 知識・技能 - 剰余の定理を利用して、整式を1次式や2次式で割った余りを求めることができる。 - 因数分解や因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。 ② 思考・判断・表現 $P(k)=0$であるkの値の見つけ方を理解し、高次式の因数分解に活用することができる。 - 高次方程式を1次方程式や2次方程式に帰着させて考えることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 - 整式を1次式で割る計算に、組立除法を積極的に利用する。 - 高次方程式が虚数解$a+bi$を解にもてば、$a-bi$も解にもつことを理解し、積極的に用いようとする。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	- 例題 - 問題演習 - グループ活動 - 発表	グループ活動 発表	
7月	第3章 図形と方程式 1 直線上の点 2 平面上の点	4	① 知識・技能 - 数直線上において、2点間の距離、線分の内分点・外分点の座標が求められる。 - 座標平面上において、2点間の距離、線分の内分点・外分点の座標、三角形の重心の座標が求められる。 ② 思考・判断・表現 - 線分の内分点・外分点の公式を統一してとらえようとする。 - 座標平面を利用して、図形の性質を証明することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 - 図形の問題を座標を用いて代数的に解決する解法のよさを知ろうとする。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表	- 例題 - 問題演習 - グループ活動 - 発表	グループ活動 発表	
7月	3 直線の方程式 4 2直線の関係	6	① 知識・技能 - 与えられた条件を満たす直線の方程式を求めることができる。 - 点と直線の距離を求めることができる。 ② 思考・判断・表現 - 直線がx、yの1次方程式で表されることを理解している。 2直線の平行条件・垂直条件を理解していて、それを利用できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 - ある点を通り与えられた直線に平行な直線、垂直な直線の方程式を公式化し、利用しようとする。 2直線の交点を通る直線の方程式に興味・関心をもち、具体的な問題に利用しようとする。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	- 例題 - 問題演習 - グループ活動 - 発表	グループ活動 発表	
9月	5 円の方程式 6 円と直線 7 2つの円	6	① 知識・技能 - 与えられた条件を満たす円の方程式の求めることができる。 - 円と直線の共有点の座標を求めることができる。 ② 思考・判断・表現 x、yの2次方程式を変形して、その方程式が表す図形を調べることができる。 - 円と直線の共有点の個数を、2次方程式の実数解の個数や円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係から考察することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 - 方程式を用いて図形を処理することの有用性を理解し、積極的に考察しようとしている。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	- 例題 - 問題演習 - グループ活動 - 発表	グループ活動 発表	
9月	8 軌跡と方程式 9 不等式の表す領域	6	① 知識・技能 - 軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 - 不等式の表す領域を図示することができる。 ② 思考・判断・表現 - 平面上の点の軌跡を、座標平面を利用して考察することができる。 - 問題を解くために、領域を利用することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 - 点が満たす条件から得られた方程式を、図形として考察しようとしている。 - 不等式の解を、座標平面上の点の集合としてみて、考察しようとしている。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	- 例題 - 問題演習 - グループ活動 - 発表	グループ活動 発表 レポート	
10月	第4章 三角関数 1 角の拡張	3	① 知識・技能 - 弧度法の定義を理解し、度数法と弧度法の換算をすることができる。 - 扇形の弧の長さや面積の公式を理解している。 ② 思考・判断・表現 - 一般角を動径とともに考察することができる。 - 弧の長さで角を測る方法として、弧度法を考察することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 - 弧度法に興味をもち、角度の換算に取り組もうとする。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	- 例題 - 問題演習 - グループ活動 - 発表	グループ活動 発表	
10月	2 三角関数 3 三角関数のグラフ 4 三角関数の性質	8	① 知識・技能 - 弧度法で表された角の三角関数の値を、三角関数の定義によって求めることができる。 - いろいろな三角関数のグラフのかき方と周期の求め方を理解している。 - 三角関数の性質とグラフの特徴を相互に理解している。 ② 思考・判断・表現 - 三角比の定義を三角関数の定義に一般化して考えることができる。 - 単位円上の点の動きから、三角関数のグラフを考えることができる。 - 三角関数の性質を、単位円を用いて考察することができる。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート	- 例題 - 問題演習 - グループ活動 - 発表	グループ活動 発表	

			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・ $y=\sin \theta$ と $y=\cos \theta$ のグラフが同じ形の曲線であることに興味、関心をもつ。 ・周期関数に興味をもち、その性質を調べようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
11月	5 三角関数の応用	3	① 知識・技能 ・三角関数を含む方程式、不等式の解き方を理解している。 ② 思考・判断・表現 ・三角関数を含む方程式、不等式を解く際に単位円やグラフを図示して考察することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・三角関数の性質を活用し、問題に取り組むことができる。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
11月	6 加法定理 7 加法定理の応用	6	① 知識・技能 ・加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。 ・2倍角の公式、半角の公式を利用して、三角関数の値を求めることができる。 ② 思考・判断・表現 ・変数を x にした関数 $y=asinx+bcosx$ のグラフをかくことができる。 ・正接の定義と加法定理を利用して、2直線のなす角を考慮することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・式変形をする際に積極的に加法定理を活用しようとしている。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
12月	第5章 指数関数と対数関数 1 指数の拡張 2 指数関数	5	① 知識・技能 ・累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。 ・指数関数のグラフの概形、特徴を理解している。 ② 思考・判断・表現 ・累乗根をグラフによって考察することができる。 ・指数関数の増減によって、大小関係や方程式・不等式を考察することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・累乗根の性質に興味を示し、具体的に理解しようとする。 ・指数関数のグラフの概形を、点をプロットしてかこうとする意欲がある。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
12月	3 対数とその性質 4 対数関数 5 常用対数	6	① 知識・技能 ・対数の定義を理解し、対数の値を求めることができる。 ・常用対数の定義を理解し、それに基づいて種々の値を求めることができる。 ② 思考・判断・表現 ・対数と指数の関係から、両者のグラフが互いに直線 $y=x$ に関して対称であるという見方ができる。 ・対数関数の増減によって、大小関係や方程式・不等式を考察することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・やや複雑な対数方程式、対数不等式に積極的に取り組もうとする。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	理科（化学）
1月	第6章 微分法と積分法 1 微分 2 導関数とその計算 3 接線の方程式	7	① 知識・技能 ・平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを求めることができる。 ・導関数の性質を利用して、種々の導関数の計算ができる。 ② 思考・判断・表現 ・微分係数の図形的意味を理解し、考えることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・関数 x^n の導関数について、二項定理を用いた証明に興味をもち、考察しようとする。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	理科（物理）
2月	4 関数の増減と極大・極小 5 関数の増減・グラフの応用	7	① 知識・技能 ・導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかくことができる。 ・導関数を利用して、最大値・最小値の問題を解くことができる。 ② 思考・判断・表現 ・接線の傾きで関数の増減が調べられることを理解している。 ・最大値・最小値と極大値・極小値との違いを、意識して考察できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・関数の増減や極値を調べ、関数のグラフをできるだけ正しく書こうとしている。 ・方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
3月	6 不定積分 7 定積分 8 定積分と面積	7	① 知識・技能 ・不定積分、定積分の定義や性質を理解し、それを利用する積分の計算方法を理解している。 ・直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。 ② 思考・判断・表現 ・面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを図をかくて考察している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・面積 $S(x)$ が関数 $f(x)$ の原始関数の1つであることに興味・関心をもち、考察しようとする。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
指導時間数の計		105					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(知識及び技能) ○数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。(思考力、判断力、表現力等) ○数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
数学B		2	全日制・普通科・2年(Ⅱ類)		新編 数学B(数研出版)		
科目の目標		数列、統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月	第1章 数列 1. 数列と一般項	2	① 知識・技能 ・数列の定義、表記について理解している。 ・数列に関する用語、記号を適切に用いることができる。 ② 思考・判断・表現 ・数の並び方からその規則性を推定して、数列の一般項を考察できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・数の並び方に興味をもち、その規則性を発見しようとする意欲がある。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
4月	2. 等差数列 3. 等差数列の和	5	① 知識・技能 ・等差数列の公差、一般項などを理解している。 ・初項と公差を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。 ・等差数列の和の公式を適切に利用して、数列の和が求められる。 ② 思考・判断・表現 ・等差数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。 ・等差数列の和を工夫して求める方法について考察できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・等差中項の性質に興味をもち、問題解決に取り組もうとする。 ・等差数列の和を工夫して求める方法に興味をもち、等差数列の和の公式を導こうとする意欲がある。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
5月	4. 等比数列 5. 等比数列の和	5	① 知識・技能 ・等比数列の公比、一般項などを理解している。 ・初項と公比を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。 ・等比数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。 ② 思考・判断・表現 ・等比数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。 ・等比数列の和を工夫して求める方法について考察できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・等比中項の性質に興味をもち、問題解決に利用しようとする。 ・等比数列の和を工夫して求める方法に興味をもち、等比数列の和の公式を導こうとする意欲がある。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
5月	6. 和の記号Σ	3	① 知識・技能 ・記号Σの意味と性質を理解し、数列の和が求められる。 ② 思考・判断・表現 ・数列の和を記号Σで表して、和の計算を簡単に行うことができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・自然数の2乗の和を工夫して求める方法に興味をもち、自然数の2乗の和の公式を導こうとする意欲がある。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
6月	7. 階差数列	3	① 知識・技能 ・階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。 ② 思考・判断・表現 ・数列の規則性の発見に階差数列が利用できる。 ・初項から第n項までの和に着目して、一般項を考察できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・数列の規則性を、隣り合う2項の差を用いて発見しようとする。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
6月	8. いろいろな数列の和	4	① 知識・技能 ・和の求め方の工夫をして、数列の和が求められる。 ② 思考・判断・表現 ・群数列を理解し、ある特定の群に属する数の和が求められる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・群数列に興味をもち、考察しようとする。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート レポート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表 レポート	

6月 7月	9. 漸化式	5	① 知識・技能 ・漸化式の意味を理解し、具体的に項が求められる。 ・初項と漸化式から数列の一般項が求められる。 ② 思考・判断・表現 ・初項と漸化式を用いて数列を定義できることを理解している。 ・複雑な漸化式を、おき換えなどを用いて既知の漸化式に帰着して考えることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について、考察しようとする。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート レポート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表 レポート	
7月	10. 数学的帰納法	5	① 知識・技能 ・数学的帰納法を用いて等式、不等式、自然数に関する命題を証明できる。 ② 思考・判断・表現 ・数学的帰納法で証明した命題について、別の方法で証明してそれらを比較するなど、多面的に考察することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・数学的帰納法を利用して、いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
9月 10月	第2章 統計的な推測 1. 確率変数と確率分布 2. 確率変数の期待値と分散 3. 確率変数の和と積	12	① 知識・技能 ・確率変数や確率分布について、用語の意味を理解している。 ・確率変数の期待値、分散、標準偏差を求めることができる。 ・確率変数の和の期待値を、公式を利用して求めることができる。 ② 思考・判断・表現 ・試行の結果を確率分布で表すことの意味がとらえられている。 ・確率変数の期待値、分散、標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。 ・確率変数の積の期待値や和の分散と確率変数の性質との相互関係がとらえられている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・確率的な試行の結果を表すのに確率分布を用いることのよさに気づき、確率分布について積極的に考察しようとする。 ・確率変数の期待値、分散に関する種々の公式を、その定義や既知の公式を用いて導こうとする。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
11月 12月	4. 二項分布 5. 正規分布	12	① 知識・技能 ・反復試行の結果を、二項分布を用いて表すことができる。 ・標準正規分布表を用いて、正規分布に関する確率の計算ができる。 ・日常の身近な問題を統計的に処理するのに、正規分布を利用できる。 ② 思考・判断・表現 ・具体的な事象を二項分布として捉え、考察することができる。 ・正規分布を活用して現実のデータについて考察することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・二項分布に興味・関心をもち、さいころを投げるなどの具体的事項について考察しようとする。 ・現実のデータが正規分布に近い分布になることがあることに興味をもち、様々なデータについて考察しようとする。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
1月 2月	6. 母集団と標本 7. 標本平均の分布	7	① 知識・技能 ・母集団分布と大きさ1の無作為標本の確率分布が一致することを理解し、母平均、母標準偏差を求めることができる。 ・標本平均が確率変数であることを理解している。 ② 思考・判断・表現 ・母集団分布と大きさ1の無作為標本の確率分布が一致することについて考察できる。 ・母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・現実に行われている様々な調査が全数調査か標本調査か、またその方法を採用しているのはなぜかに興味をもち、それぞれの調査の特徴を調べたり考えたりしようとする。 ・大数の法則に興味をもち、標本の大きさnが大きくなるときの分布曲線の変化を、コンピュータなどを用いて積極的に調べようとする。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート レポート ノート 観察 発表 学習の振り返り レポート	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表 レポート	公民科
2月 3月	8. 推定 9. 仮説検定	7	① 知識・技能 ・推定に関わる用語・記号を適切に活用することができる。 ・仮説検定の考え方をを用いて、日常の身近な事象に対する主張を検定することができる。 ② 思考・判断・表現 ・推定や信頼区間の考え方がわかる。 ・仮説検定の考え方がわかる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・母平均や母比率の推定に関心を示し、信頼区間の幅と標本の大きさや信頼度との関係を考察しようとする。 ・仮説検定によって様々な判断ができることに興味をもち、現実の問題の解決に役立てようとする。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート プレゼンテーション ノート 観察 発表 学習の振り返り プレゼンテーション	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表 プレゼンテーション	
指導時間数の計		70					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういいじめのない環境をつくる。
---------	--

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) 授業において、基礎学力の確実な習得を目指す。 ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) 課題について自ら考えるときにも、実験を通して科学的に考える力を養う。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等) 他者との学び合いの中で、自分の考えを表現する力を育む。
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
物理		2	全日制・普通科・2学年		高等学校 物理(第一学習社)		
科目の目標		(1)物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探求する力を養う。 (3)物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする。					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月 ～ 6月	第I章 運動とエネルギー 第1節 平面運動と放物運動 第2節 剛体のつり合い	20	① 知識・技能 ・平面に拡張された運動を理解できる。 ・モーメントの意味を理解する。 ② 思考・判断・表現 ・運動における式を導出できる。 ・物体にかかるモーメントを理解できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りの運動や回転する物体について学んだこと をもとに興味関心を持つ。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集 ・ 考査 ・ 授業ノート ・ 授業ノート ・ グループワーク	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 発表	身の回りにある回 転の運動をしてい る物体を出し合っ て全員で共有す る。	数学
7月 ～ 9月	第I章 運動とエネルギー 第3節 運動量の保存	10	① 知識・技能 ・運動量、力積を理解できる。 ・運動量の変化が力積であることを理解できる。 ② 思考・判断・表現 ・運動量、力積を説明できる。 ・力積を与えられたときに変化後の運動量の導出がで きる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りの運動における運動量や力積に興味関心 を持つ。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集 ・ 考査 ・ 授業ノート ・ 授業ノート ・ グループワーク ・ 観察活動	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 観察活動 ・ 発表	身の回りにある物 体の運動の運動量 を出し合って全員 で共有する。	数学
10月 ～ 12月	第I章 運動とエネルギー 第4節 円運動と単振動	20	① 知識・技能 ・円運動について理解できる。また慣性力、遠心力を 理解できる。 ・単振動について理解できる。また、復元力が場所によ って大きさが異なることを理解する。 ② 思考・判断・表現 ・観測者が外から見ているときと、一緒に回っている ときで考える力が異なることを理解する。 ・復元力の式を導出でき、場所場所の大きさを求める ことができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りの円運動や単振動している物に興味関心 を持ち、どのような力でその運動をしているのかを知ろ うとする。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集 ・ 考査 ・ 授業ノート ・ 授業ノート ・ グループワーク ・ 観察活動	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 観察活動 ・ 発表	身の回りにある円 運動、単振動をし ているものを出し 合って、全員で共 有する。	数学
1月 ～ 3月	第I章 運動とエネルギー 第5章 気体の性質と分子の運 動	20	① 知識・技能 ・気体の法則について理解できる。また、気体の内部 エネルギーや、気体による仕事を理解できる。 ② 思考・判断・表現 ・気体の状態変化がどのような変化なのかを判断で き、それに対応する計算を行うことができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りで気体の状態変化を利用している物に関心 を持ち、どのような仕組みなのか知ろうとする。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集 ・ 考査 ・ 授業ノート ・ 授業ノート ・ グループワーク ・ 観察活動	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 観察活動 ・ 発表	身の回りで気体の 状態変化を利用し ている物を出し 合って、全員で共 有する。	数学
指導時間数の計		70					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) 授業において、基礎学力の確実な習得を目指す。 ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) 課題について自ら考えるとともに、実験を通して科学的に考える力を養う。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等) 他者との学び合いの中で、自分の考えを表現する力を育む。
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
生物	2	全日制・普通科・3年	高等学校 改訂 生物(第一学習社)

科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。						
-------	--	--	--	--	--	--	--

時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月 ～ 7月	第1章 細胞と分子	25	① 知識・技能 細胞の構造やタンパク質の働きについて理解している。 ② 思考・判断・表現 観察・実験において考察ができる。 細胞の構造やタンパク質の働きについて考察し、導き出した考えを表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 細胞の構造やタンパク質の働きについて関心をもち、主体的に探究している。 観察・実験に主体的に取り組んでいる。	【小テスト】 【定期考査】 細胞の構造やタンパク質の働きについて理解している。 【ワークシート】 【実験ワークシート】 授業についてのワークシート、観察・実験のワークシートを作成している。 【学習活動への取組】 細胞の構造やタンパク質の働きについてについて主体的に調べようとしている。	・例題 ・問題演習 ・グループワーク ・観察・実験	・タンパク質がどのような働きをしているのか、レポートにまとめ発表する。	
9月 ～ 12月	第2章 代謝	25	① 知識・技能 呼吸や光合成、窒素同化について理解している。 ② 思考・判断・表現 観察・実験において、考察ができる。 光合成や呼吸によるエネルギーの移動について考察し、導き出した考えを表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 エネルギーと代謝について関心をもち、主体的に探究している。 観察・実験に主体的に取り組んでいる。	【小テスト】 【定期考査】 呼吸や光合成、窒素同化について理解している。 【ワークシート】 【実験ワークシート】 授業についてのワークシート、観察・実験のワークシートを作成している。 【学習活動への取組】 エネルギーと代謝についてについて主体的に調べようとしている。	・例題 ・問題演習 ・グループワーク ・観察・実験	・生物がどのようにエネルギーを利用しているのかを調べ、表現する。	化学基礎・化学
1月 ～ 3月	第3章 遺伝情報の発現	20	① 知識・技能 遺伝子の発現やバイオテクノロジーについて理解している。 ② 思考・判断・表現 観察・実験において、考察ができる。 バイオテクノロジーについて考察し、導き出した考えを表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 遺伝子の発現やバイオテクノロジーについて関心をもち、主体的に探究している。 観察・実験に主体的に取り組んでいる。	【小テスト】 【定期考査】 遺伝子の発現やバイオテクノロジーについてについて理解している。 【ワークシート】 【観察・実験ワークシート】 授業についてのワークシート、観察・実験のワークシートを作成している。 【学習活動への取組】 遺伝子の発現やバイオテクノロジーについてについて主体的に調べようとしている。	・例題 ・問題演習 ・グループワーク ・観察・実験	・バイオテクノロジーがどのように応用されているか、レポートにまとめ発表する。	
指導時間数の計		70					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういいじめのない環境をつくる。
---------	--

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか（知識及び技能） ○理解していること・できることをどう使うか（思考力、判断力、表現力等） ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
化学基礎		2	全日制・普通科・2学年		新編 化学基礎(数研出版)		
科目の目標		・化学的な事物・現象について、日常生活と関連付けながら知識を習得するとともに、論理的に表現する力を養う。 ・観察、実験などに関する基本的な技能を身に付け、化学的な事物・現象に主体的に関わろうとする。 ・観察・実験から得られた結果を、化学的に考察する力を養うとともに、さらに探求しようとする知的好奇心を育てる。					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月	第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成	8	① 知識・技能 ・物質の構成による分類や、成分の検出方法について理解する。 ・物質の熱運動について理解する。 ② 思考・判断・表現 ・物質に含まれる成分の検出に最適な手法を考え、説明できる。 ・絶対温度を、日常生活とも馴染みの深いセルシウス温度に変換できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りの物質が何からできているのか、その成分について学んだことをもとに、知ろうとする。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集 ・ 考査 ・ 授業ノート ・ 授業ノート ・ グループワーク	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 発表	身近な物質で、成分を知りたいと思うものを出し合い、全員で共有し考える。	数学
5月	第1編 物質の構成と化学結合 第2章 物質の構成粒子	8	① 知識・技能 ・原子の構造と周期表との関係を理解する。 ・イオンの成り立ちについて理解する。 ② 思考・判断・表現 ・原子の構造を説明できる。 ・原子がイオンになる過程を説明できる。また、その原子が陽イオン・陰イオンのどちらになるのかを判断できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・物質の源である原子やイオンの構造に興味関心を持ち、観察しようとする。 ・身の回りの物質がどんな原子・イオンから構成されているか興味・関心を持ち、知ろうとする。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集 ・ 考査 ・ 授業ノート ・ 授業ノート ・ グループワーク ・ 観察活動	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 観察活動 ・ 発表	身近な物質で、どんな原子・イオンから構成されているのか知りたいものを出し合い、全員で共有し考える。 また、原子の模型を使って、原子の構造を説明し合う。	数学
6月 ～7月	第1編 物質の構成と化学結合 第1章 粒子の結合	16	① 知識・技能 ・身の回りの物質は、粒子がイオン結合・共有結合・金属結合によって結びついて構成されていることを理解する。 ② 思考・判断・表現 ・イオン結合・共有結合・金属結合の仕組みについて説明できる。 ・その物質を構成する粒子が、どのような結合を構成しているのか判断できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りの物質を構成する粒子が、どのような結合で結びついているのか知ろうとする。 ・物質には、構成する粒子の結合の仕方によって異なる特徴があり、その様子を観察しようとする。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集 ・ 考査 ・ 授業ノート ・ 授業ノート ・ グループワーク ・ 観察活動	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 観察活動 ・ 発表	身の回りの物質を構成する粒子が、どのように結合しているのかを考え、全員で共有する。	数学
9月 ～10月	第2編 物質の変化 第1章 物質質量と化学反応式	16	① 知識・技能 ・化学で用いられる物理量のひとつである物質質量の考え方を理解する。 ・溶液の濃度の化学的な表し方を理解する。 ・化学反応式の書き方を習得する。 ② 思考・判断・表現 ・物質の量を、物質質量を用いて表せる。 ・溶液中の物質の濃度を化学的に表せる。 ・化学反応を、化学反応式を用いて表せる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・自ら調製した溶液の濃度を、化学的手法を用いて求めようとする。 ・身近な化学反応を、化学反応式で表そうとする。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集 ・ 考査 ・ 授業ノート ・ 授業ノート ・ グループワーク ・ 実験	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 実験 ・ 発表	物質を水に溶かして調製した溶液の濃度を、求め周囲の生徒と共有する。	数学
11月 ～12月	第2編 物質の変化 第2章 酸と塩基の反応	16	① 知識・技能 ・酸・塩基と中和の関係を理解する。 ・pHについて、日常生活での例と関連付けて理解する。 ・中和滴定の操作と仕組みを理解する。 ② 思考・判断・表現 ・水溶液のpHを計算から決定できる。 ・中和滴定の実験から、濃度未知の溶液の濃度を決定できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りの溶液のpHを知ろうとする。 ・実験操作に主体的に関わろうとする。	・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集 ・ 考査 ・ 授業ノート ・ 授業ノート ・ グループワーク ・ 実験	・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 実験 ・ 発表	pHを知りたい溶液を出し合い全員で共有し、pHを求めてみる。 実験操作をグループで確認しながら、協力して行う。	数学

1月 ～3月	第2編 物質の変化 第3章 酸化還元反応	22	① 知識・技能 ・酸化と還元の仕事みを、身近な例に関連付けて理解する。 ・酸化還元反応の工業的応用について知る。 ② 思考・判断・表現 ・身近な酸化還元反応について、どのような酸化反応・還元反応が生じているのか、化学反応式も含めて考え、意見を共有することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身近な酸化還元反応に興味関心を持ち、その反応の仕組みについて、グループでの話合いに主体的に参加しようとする。	・考査 ・授業ノート ・問題集 ・考査 ・授業ノート ・授業ノート ・グループワーク	・例題 ・問題演習 ・グループワーク ・実験 ・発表	身近な酸化還元反応について、どのような酸化反応と還元反応が生じているのか、グループで考え話し合う。	数学
指導時間数の計		70					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういいじめのない環境をつくる。
---------	--

教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
-------	--

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)		
体育		2	全日制・普通科・2学年		現代高等保健体育(大修館書店)		
科目の目標		体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。					
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月 第2週 ～ 5月 第1週	体づくり運動	9	① 知識・運動 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解している。 健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができる。	観察 学習カード	・ 個別の運動実践 ・ 課題の整理 (個別) ・ 運動計画の作成 (グループワーク) ・ 計画の発表 ・ 計画の実践	・ 意義・原則等を理解し説明する。 ・ 自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・ 自分の考えやグループの考えを発展させる。 ・ 他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・ 体育理論(豊かなスポーツライフの設計の仕方) ・ 保健(精神疾患の予防と回復) ・ 家庭基礎(生涯の生活設計)
			② 思考・判断・表現 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	観察 学習カード			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとし ること、話し合いに貢献しようとし ることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	観察 学習カード			
5月 第2週 ～ 6月 第1週	球技 (ネット型) ・卓球 ・バドミントン ・バレー	9	① 知識・運動 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。	テスト 観察	・ 個人練習 ・ 課題の整理 (ペアワーク) ・ 練習計画の作成 (ペアワーク) ・ 計画の発表 ・ 計画の実践 ・ 知識テスト ・ リーグ戦運営	・ 技術を解釈し説明する。 ・ 自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・ 自分の考えやチームの考えを発展させる。 ・ 他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・ 体育理論(運動やスポーツの効果的な学習の仕方)
			② 思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	観察 学習カード			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし ること、作戦などについて の話し合いに貢献しようとし ること、一人一人の違いに 応じたプレイなどを大切に しようとし ること、互いに助け合い 教え合おうとし ることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	観察 学習カード			
6月 第2週 ～ 7月 第2週	球技 (ゴール型) ・バスケットボール ・サッカー	9	① 知識・運動 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	テスト 観察	・ 個人練習 ・ グループ練習 ・ 課題の整理 (グループワーク) ・ 練習計画の作成 (ペアワーク) ・ 計画の発表 ・ 計画の実践 ・ 知識テスト ・ リーグ戦運営	・ 技術を解釈し説明する。 ・ 自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・ 自分の考えやチームの考えを発展させる。 ・ 他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・ 体育理論(運動やスポーツの効果的な学習の仕方)
			② 思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	観察 学習カード			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとし ること、作戦などについて の話し合いに貢献しようとし ること、一人一人の違いに 応じたプレイなどを大切に しようとし ること、互いに助け合い 教え合おうとし ることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	観察 学習カード			

7月 第3週	体育理論 (運動・スポーツの学び方) ・スポーツにおける技能と体力 ・スポーツにおける技術と戦術 ・技能の上達過程と練習	3	① 知識・運動 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。	ワークシート テスト	・講義 ・ワークシート作業 (課題の整理) (発表) ・小テスト	・事実を正確に理解し伝達する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・保健 (医薬品)
			② 思考・判断・表現 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	ワークシート 観察			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組んでいる。	ワークシート 観察			
9月 第1週 ～ 10月 第1週	ダンス ・現代的リズムのダンス	9	① 知識・運動 ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解している。 リズムの特徴を強調して、全身で自由に踊ったり、変化とまとまりをつけて仲間と対応したりして踊ることができる。	テスト 観察	・ペアワーク ・グループワーク ・発表	・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えや集団の考えを発展させる。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・体育理論 (豊かなスポーツライフの設計の仕方)
			② 思考・判断・表現 表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	観察 学習カード			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	観察 学習カード			
10月 第2週 ～ 11月 第1週	陸上競技	10	① 知識・運動 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 自己に適したペースを維持して走ることができる。	観察 学習カード	・グループワーク ・練習計画の作成	・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えや集団の考えを発展させる。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・体育理論 (豊かなスポーツライフの設計の仕方)
			② 思考・判断・表現 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	観察 学習カード			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	観察 学習カード			
11月 第2週 ～ 12月 第3週	球技 (ネット型) ・卓球 ・バドミントン ・バレー	9	① 知識・運動 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。	テスト 観察	・個人練習 ・課題の整理 (ペアワーク) ・練習計画の作成 (ペアワーク) ・計画の発表 ・計画の実践 ・知識テスト ・リーグ戦運営	・技術を解釈し説明する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えやチームの考えを発展させる。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・体育理論 (運動やスポーツの効果的な学習の仕方)
			② 思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	観察 学習カード			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	観察 学習カード			
1月 第2週	体育理論 (運動・スポーツの学び方) ・効果的な動きのメカニズム ・体カトレーニング ・運動やスポーツでの安全の確保	3	① 知識・運動 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。	ワークシート テスト	・講義 ・ワークシート作業 (課題の整理) (発表) ・小テスト	・事実を正確に理解し伝達する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・保健 (医薬品)
			② 思考・判断・表現 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	ワークシート 観察			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組んでいる。	ワークシート 観察			

1月 第3週 ～ 3月 第3週	球技 (ゴール型) ・バスケットボール ・サッカー	9	① 知識・運動 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	テスト 観察	・個人練習 ・グループ練習 ・課題の整理 (グループワーク) ・練習計画の作成 (ペアワーク) ・計画の発表 ・計画の実践 ・知識テスト ・リーグ戦運営	・技術を解釈し説明する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えやチームの考えを発展させる。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・体育理論(運動やスポーツの効果的な学習の仕方)
			② 思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	観察 学習カード			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようということ、作戦などについての話合いに貢献しようということ、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようということ、互いに助け合い教え合おうということなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	観察 学習カード			
指導時間数の計		70					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
保健	1	全日制・普通科・2学年	現代高等保健体育（大修館書店）

科目の目標	保健の見方・考え方を働かせて、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
-------	--

時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月 第2週 ～ 5月 第1週	(1)現代社会と健康 01健康の考え方と成り立ち 02私たちの健康のすがた	3	① 知識 国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること、健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることを理解している。 ② 思考・判断・表現 健康の考え方に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 健康の考え方についての学習に自主的に取り組もうとしている。	観察 テスト 観察 保健体育ノート 観察 保健体育ノート	・講義 ・保健体育ノート ・グループワーク	・情報を分析・評価し、議論する。 ・自分の考えやグループの考えを発展させる。	
5月 第2週 ～ 6月 第3週	(1)現代社会と健康 03生活習慣病の予防と回復 04がんの原因と予防 05がんの治療と回復	5	① 知識 健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解している。 ② 思考・判断・表現 生活習慣病などの予防と回復に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 生活習慣病などの予防と回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。	観察 テスト 観察 保健体育ノート 観察 保健体育ノート	・講義 ・保健体育ノート ・グループワーク	・原則や概念を理解し説明する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えや集団の考えを発展させる。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	家庭基礎 「食品と健康」
6月 第4週 ～ 7月 第3週	(1)現代社会と健康 06運動と健康 07食事と健康 08休養・睡眠と健康	4	① 知識 がん、脳血管疾患、虚血性心疾患などを適宜取り上げ、リスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ② 思考・判断・表現 生活習慣病などの予防と回復について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 生活習慣病とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	観察 テスト 観察 保健体育ノート 観察 保健体育ノート	・講義 ・保健体育ノート ・グループワーク	・情報を分析・評価し、議論する。 ・自分の考えやグループの考えを発展させる。	

9月 第1週 ～ 9月 第4週	(1)現代社会と健康 09喫煙と健康 10飲酒と健康 11薬物乱用と健康	4	① 知識 喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと、それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解している。	観察 テスト	・講義 ・保健体育ノート ・グループワーク	・情報を分析・評価し、議論する。 ・自分の考えやグループの考えを発展させる。	
			② 思考・判断・表現 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明している。	観察 保健体育ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康についての学習に自主的に取り組もうとしている。	観察 保健体育ノート			
10月 第1週 ～ 10月 第4週	(1)現代社会と健康 12精神疾患の特徴 13精神疾患の予防 14精神疾患からの回復	4	① 知識 精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であること、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを理解している。	観察 テスト	・講義 ・保健体育ノート ・グループワーク	・原則や概念を理解し説明する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えや集団の考えを発展させる。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	
			② 思考・判断・表現 精神疾患の予防と回復に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明している。	観察 保健体育ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 精神疾患の予防と回復についての学習に自主的に取り組もうとしてる。	観察 保健体育ノート			
11月 第1週 ～ 11月 第4週	(1)現代社会と健康 15現代の感染症 16感染症の予防 17性感染症・エイズとその予防	4	① 知識 感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること、その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解している。	観察 テスト	・講義 ・保健体育ノート ・グループワーク	・原則や概念を理解し説明する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えや集団の考えを発展させる。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	
			② 思考・判断・表現 現代の感染症とその予防に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明している。	観察 保健体育ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 現代の感染症とその予防についての学習に自主的に取り組もうとしている。	観察 保健体育ノート			
12月 第1週 ～ 1月 第2週	(1)現代社会と健康 18健康に関する意思決定・行動選択 19健康に関する環境づくり	3	① 知識 国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること、健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることを理解している。	観察 テスト	・講義 ・保健体育ノート ・グループワーク	・情報を分析・評価し、議論する。 ・自分の考えやグループの考えを発展させる。	
			② 思考・判断・表現 健康の考え方に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明している。	観察 保健体育ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 健康の考え方についての学習に自主的に取り組もうとしている。	観察 保健体育ノート			
1月 第3週 ～ 2月 第3週	(2)安全な社会生活 01事故の現状と発生要因 02安全な社会の形成 03交通における安全	4	① 知識 安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であること、交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わること、交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを理解している。	観察 テスト	・講義 ・保健体育ノート ・グループワーク	・原則や概念を理解し説明する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えや集団の考えを発展させる。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	
			② 思考・判断・表現 安全な社会づくりに関わる事象や情報から課題を発見し、自他や社会の危険の予測を基に、危険を回避する方法を選択し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明している。	観察 保健体育ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 安全な社会づくりにについての学習に自主的に取り組もうとしてる。	観察 保健体育ノート			

2月 第4週 ～ 3月 第3週	(2)安全な社会生活	4	① 知識 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること、応急手当には、正しい手順や方法があること、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行う技能を身に付けている。	観察 テスト	・講義 ・保健体育ノート ・グループワーク	・原則や概念を理解し説明する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えや集団の考えを発展させる。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	特活 「クラスマッチ」
	04応急手当の意義とその基本		② 思考・判断・表現 応急手当に関わる事象や情報から課題を発見し、傷害の悪化等を防止する方法を選択し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明している。	観察 保健体育ノート			
	05日常的な応急手当		③ 主体的に学習に取り組む態度 応急手当についての学習に自主的に取り組もうとしてる。	観察 保健体育ノート			
指導時間数の計		35					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○英語表現の理解を深め、場面に応じた英語を使用することができる（知識及び技能） ○文法や語いの知識を深め、様々な英語表現を使いこなすことができる（思考力、判断力、表現力等） ○異文化への興味・関心を高め、コミュニケーションの基礎を養う（学びに向かう力、人間性等）
-------	---

科目名		単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)		
英語コミュニケーションⅡ		3	全日制・普通科・2学年(Ⅱ類)	MY WAY English CommunicationⅡ (三省堂)		
CAN-DOリストに基づく 年度末の学習到達目標		聞くこと(L)：何が話題とされているかを理解し、情報や考えなどの要旨を理解することができる。 読むこと(R)：教科書本文の大まかな内容をつかむことができる。 話すこと〔やりとり〕(SI)：相槌などの話し方を意識しながら身近な話題について意見を交換することができる。 話すこと〔発表〕(SP)：原稿などの準備をした上で、まとまった量のスピーチをすることができる。 書くこと(W)：自分のことについて理由や根拠を挙げて2～3文程度の英文を書くことができる。				
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元の目標	主な言語活動等	評価方法	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月 2週～ 5月 1週目	Dances Around the World	13	・SV0／SV00を理解する。 ・英文の内容・要点を的確につかむ。 ・英文に関連する事柄について自分の意 見をまとめる。	・海外からの友人に紹介したい日本の踊りに ついて話し合い、発表する。 ・自分の好きなダンスや音楽のジャンルに ついて書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・グループ発表	地理探究
5月 2週～ 6月 1週目	Katsura Sunshine ～Making the World Laugh	14	・形式主語、形式目的語を理解する。 ・英文の内容・要点を的確につかむ。 ・英文に関連する事柄について自分の意 見をまとめる。	・海外からの旅行者に紹介したい日本文化に ついて話し合い、発表する。 ・買い物で失敗した経験について書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writhing課題 ・個人発表	論理国語 日本史探究
6月 2週～ 7月 3週目	Living with Nature ～Takita Asuka's Journey	14	・現在完了形、現在完了進行形、過去完 了形、過去完了進行形を理解する。 ・英文の内容・要点を的確につかむ。 ・英文に関連する事柄について自分の意 見をまとめる。	・絶滅の危機にある動植物の現状について 話し合い、発表する。 ・多くの人の生活に影響を与えた人物に ついて書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・グループ発表	生物
9月 1週 ～3週 目	Sesami Street	9	・知覚動詞、使役動詞を理解する。 ・英文の内容・要点を的確につかむ。 ・英文に関連する事柄について自分の意 見をまとめる。	・セサミストリートのキャラクターについ て話し合い、発表する。 ・普段の生活で多様性を感じることに ついて書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writhing課題 ・個人発表	公共
9月 4週 ～10月 3週目	From Landmines to Herbs	10	・関係代名詞、前置詞＋関係代名詞、関 係代名詞の非制限用法を理解する。 ・英文の内容・要点を的確につかむ。 ・英文に関連する事柄について自分の意 見をまとめる。	・参加してみたい国際ボランティア活動に ついて話し合い、発表する。 ・訪れたい世界遺産とその場所につい ての説明を書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・グループ発表	地理探究
10月 4週 ～ 11月 3週目	Murals ～The Power of Public Art	9	・助動詞、助動詞の過去形を使った表 現、助動詞＋have＋過去分詞、完了不 定詞を理解する。 ・英文の内容・要点を的確につかむ。 ・英文に関連する事柄について自分の意 見をまとめる。	・校舎の外壁に描きたい絵について話し 合い、発表する。 ・バンクシーが作品を描いたときの気持 ちを想像して書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writhing課題 ・個人発表	国語表現
11月 4週 ～ 12月 3週目	“Englishes” in the World	9	・分詞構文、付帯状況withを理解する。 ・英文の内容・要点を的確につかむ。 ・英文に関連する事柄について自分の意 見をまとめる。	・楽しみながらできる英語の学習方法に ついて話し合い、発表する。 ・世界にはさまざまな英語を話す人が いることについて感じたことを書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・グループ発表	国語表現 地理探究
1月 2週 ～ 1月 3週目	Deepika Kurup ～The Science Behind Clean Water	9	・仮定法過去、仮定法過去完了、no matter＋疑問詞を理解する。 ・英文の内容・要点を的確につかむ。 ・英文に関連する事柄について自分の意 見をまとめる。	・社会問題に取り組む発明家や起業家 について話し合い、発表する。 ・大変でも毎日やり遂げたいことにつ いて書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writhing課題 ・個人発表	公共
1月 4週 ～ 2月 3週目	The World's Poorest President	9	・同格を表すthat節、強調構文、倒置、 省略を理解する。 ・英文の内容・要点を的確につかむ。 ・英文に関連する事柄について自分の意 見をまとめる。	・幸せを感じる時について話し合い、 発表する。 ・フィークについての自分の意見を書 く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・グループ発表	論理国語
2月 4週 ～ 3月 3週目	Living in an E-Society ～The Pros and Cons	9	・英文の内容・要点を的確につかむ。 ・英文に関連する事柄について自分の意 見をまとめる。	・eスポーツや電子書籍の長所と短所 について役割を決めて、議論する。 ・eスポーツや電子書籍の長所と短所 について、自分の意見の根拠や具体例 などを書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・グループ討論	論理国語
指導時間数の計		105				

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自励心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういいじめのない環境をつくる。
教科の目標	○英語表現の理解を深め、場面に応じた英語を使用することができる（知識及び技能） ○文法や語いの知識を深め、様々な英語表現を使いこなすことができる（思考力、判断力、表現力等） ○異文化への興味・関心を高め、コミュニケーションの基礎を養う（学びに向かう力、人間性等）

科目名		単位数	課程・学科・学年		使用教科書名(出版社)	
論理・表現 I		2	全日制・普通科・2学年		EARTHRISE English Logic and Expression I (SUKEN SHUPPAN)	
CAN-DOリストに基づく 年度末の学習到達目標		聞くこと(L) :何が話題とされているかを理解し、情報や考えなどの要旨を理解することができる。 読むこと(R) :教科書本文の大まかな内容をつかむことができる。 話すこと[やりとり](SI) :相槌などの話し方を意識しながら身近な話題について意見を交換することができる。 話すこと[発表](SP) : 原稿などの準備をした上で、まとまった量のスピーチをすることができる。 書くこと(W) :自分のことについて理由や根拠を挙げて2～3文程度の英文を書くことができる。				
時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元の目標	主な言語活動等	評価方法	各教科等横断的な資質・ 能力の育成に関わる他 教科等との関連
4月 2週目	はじめに	2	・中学校における基礎の確認	英語の語順や基本的な品詞の使い方を意識して、身近な出来事を英語で表現することができる。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	国語表現
4月 3週～4 週目	Lesson1 Introduce yourself to your class	4	・クラスメートの名前や部活動などについて、英語で尋ねて発表することができる。 ・40語程度の英語で自己紹介文を書くことができる。	2人1組になり、相手の名前や部活動について聞く。聞いたものをまとめてクラスで発表をしたり、それをもとに自己紹介文を書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	国語表現
5月 1週～2 週目	Lesson2 How do you spend your weekends ?	4	・時制を用いて休日にしたことなどについて英語で伝え合うことができる。 ・30語程度の英語で自分の休日の予定を書くことができる。	2人1組になり、お互いに休日にしたことなどを聞く。聞いたものをまとめてクラスで発表をしたり、自分の休日の予定などについての文を書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	国語表現
5月3週 ～4週 目	Lesson3 Where did you go onvacation?	4	・適切な時制を用いて自分の旅行の経験などについて英語で伝え合うことができる。 ・40語程度で自分の旅行を報告するブログ文を書くことができる。	2人1組になり、お互いに旅行の経験などを聞く。聞いたものをまとめてクラスで発表をしたり、自分の休日の予定などについての文を書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	論理国語 地理探究
6月 1週 ～2週 目	Lesson4 how can I get there ?	4	・mayやcanを用いてパートナーとルート案内し合うことができる。 ・mustやhave toを用いて40語程度の謝罪のメール文を書くことができる。	2人1組になり、お互いにルート案内などを行う。ペアで行ったものをクラスで発表する。また、見本に則って謝罪のメール文を書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	国語表現
6月 3週 ～4週 目	Lesson5 Would you like to come with me ?	4	・wouldやcouldなどを用いて出席予定のイベントにパートナーを誘うことできる。 ・should have doneを用いて30語程度の後悔の文を書くことができる。	2人1組になり、出席予定のイベントにパートナーを誘い合う。ペアで行ったものをクラス全体で実演する。自分の後悔についての文章を書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	国語表現
7月 1週 ～3週 目	Lesson6 Something really Japanese	5	・be動詞＋過去分詞の形を用いてパートナーと自分が買おうとしているものについて伝え合うことができる。 ・be動詞＋過去分詞の形を用いて祭りに誘うメール文を40語程度で書くことができる。	2人1組になり、自分が買おうとしているものについて伝え合う。ペアで行ったものをもとに自分が買おうとしている物について20秒ほどでクラスに発表する。また祭りに誘うメールの文章を書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	国語表現
9月1週 ～2週 目	Lesson7 Do you do any volunteer activities ?	5	・to doの形を用いて自分が参加したいボランティア活動についてパートナーと伝え合うことができる。 ・To doの形を用いて自分の将来についてのレポートを40語程度で書くことができる。	2人1組になり、自分が参加したいボランティア活動について伝え合う。ペアで行ったものをもとに自分が参加したいボランティア活動について30秒ほどでクラスで発表する。また自分の将来についてのレポート文を書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	国語表現 論理国語
9月3週 目	Lesson8 Let's enjoy school life !	2	・want+0+to doの形を用いて部活動についてパートナーと伝え合うことができる。 ・let[make]+0+ doの形を用いて学校行事についてのスピーチ原稿を40語程度で書くことができる。	2人1組になり、部活動について互いにインタビューを行う。ペアで行ったものをもとにインタビューの会話をクラスで発表する。また学校行事についてのスピーチ原稿を40語程度で書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	国語表現 論理国語
9月4週 目	Lesson9 Are you eco-friendly?	2	・doing(動名詞)の形を用いて環境保護のためにできることについてパートナーと伝え合うことができる。 ・doing(動名詞)の形を用いて環境保護についてのスピーチ原稿を40語程度で書くことができる。	2人1組になり、環境保護のためにできることについて互いにインタビューを行う。ペアで行ったものをもとにインタビューの会話をクラスで発表する。また環境保護についてのスピーチ原稿を40語程度で書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	論理国語 公共
10月1 週目～ 3週目	Lesson10 What sports do you like ? Lesson11 That's new to me!	6	・doing(分詞)などの形を用いてスポーツイベントや労働時間についてパートナーとインタビューし合うことができる。 ・doing/done(分詞)などの形を用いて自分が最近したスポーツや特定の野菜などについてのブログやパラグラフを40語程度で書くことができる。	2人1組になり、スポーツイベントや労働時間について互いにインタビューを行う。ペアで行ったものをもとにインタビューの会話をクラスで発表する。また自分が最近したスポーツや特定の野菜などについてのブログやパラグラフを40語程度で書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	論理国語 公共
10月4 週目～ 11月2 週目	Lesson12 Which Nobel Prize winner do you admire most ? Lesson13 I'm interested in history	6	・who,whenなどの形を用いてノーベル賞受賞者や歴史上の偉人についてパートナーと伝え合うことができる。 ・who,whereなどの形を用いて自分が尊敬する人や歴史的建造物についてパラグラフを30～40語程度で書くことができる。	2人1組になり、ノーベル賞受賞者や歴史上の偉人について互いに伝え合う。ペアで行ったものをもとにクラスで発表する。また自分が尊敬する人や歴史的建造物についてパラグラフを30～40語程度で書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	論理国語 日本史探究
11月3 週目～ 12月3 週目	Lesson14 Various countries around the world Lesson15What job are you interested in ?	6	・比較級や仮定法の形を用いて自分が行ってみたい渡航先や興味のある職業についてパートナーと伝え合うことができる。 ・who,whereなどの形を用いて2つの国の気候の違いや26歳の自分を想像した説明文についてを40語程度で書くことができる。	2人1組になり、自分が行ってみたい渡航先や興味のある職業について互いに伝え合う。ペアで行ったものをもとにクラスで発表する。また2つの国の気候の違いや26歳の自分を想像した説明文について30～40語程度で書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	論理国語 公共
1月2週 ～4週 目	ディベート・ディスカッション	4	・これまでに習った表現やディベート・ディスカッション頻出の表現を理解し使用することができる。 ・ディベート・ディスカッションの進め方について理解し実際に行ってみることができる。	賛成・反対の立場や各グループに分かれて、話し合う題目について、論理的な理由や根拠、例などについて考えさせる。 実際にディベート・ディスカッションを行ってみて、出た意見・考えなどについてまとめてクラスで確認し、感想などを日本語と英語で書かせる。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	論理国語 公共
2月1週 目～3 月3週 目	まとめ	12	・これまでに習った表現などについて、具体的場面を意識してペアで伝え合ったり、書いたりすることができる。	2人1組になり、これまでに扱った具体的場面について互いに伝え合う。また同じく具体的場面を意識して30～40語程度の文章を書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	国語表現
指導時間数の計		70				

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○家族や家庭生活に関する基礎的・基本的な知識と技術を身に付けることができる。 ○生活の充実向上を図る力と実践的な態度を身に付けることができる。 ○家庭や地域の生活上の課題を見つけ解決する能力を育成する。
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
家庭基礎	2	全日制・普通科・2年	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）

科目の目標	家族や家庭生活に関する基礎・基本的知識と技術の向上を図り、実生活・実社会で課題を見つけ解決する能力を育成する。
-------	---

時期 月 週 日	単 元・題 材 名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4 月 2 週 日	1 章 生涯を見通す ・家庭科の学び方 ・学校家庭クラブ ・ホームプロジェクトについて ・自分らしい人生をつくる ・家族・社会との共生 ・生涯を見通す	2	① 知識・技能 ホームプロジェクト及び学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解している。 ② 思考・判断・表現 自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の問題を見出して課題設定し、解決策を構想し、実践し課題を解決する力を身に付ける。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 課題の解決に主体的に取り組む、改善し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	学習ノート グループ活動 発表 ワークシート	1 時間目：オリエンテーション ・ホームプロジェクト 2 時間目：人生を展望する。 ・青年期の課題 ・人生100年時代を生きる 各年代に想定されるライフイベントをワークシートに記入する。	・ライフプランを立て客観的に見直す。	
4 月 3 週 日	・目標を持って生きる 2 章 人生をつくる ・人生をつくる	2	① 知識・技能 人の一生について、自己と他者、社会との関りから様々な生き方があることを知り自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見出して、解決する力を身に付けている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 様々な人と協働し、よりよい社会の構築にに向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、自分や家族、地域の地域の生活の充実を図るための実践しようとしている。	将来設計プランシート 学習ノート	1 時間目：人生は意思決定の連続 2 時間目：未来予想図を描く。 ・人生100年ライフコース	・自分に興味のある仕事や興味のあることについて学習ノートに書き出す。 ・自立とは何かについて考え、自分が今どの段階にいるのか考える。 ・多様化するライフスタイルを知る。 ・自身の結婚観についてグループで話し意見交換する。	・育児、介護休業制度 【男性の育児休暇取得率について】 ・日本国民の義務、雇用の仕組み（公共）
4 月 4 週 目 ～ 5 月 1 週 日	・青年期の自立と家族 ・家族、家庭を見つめる ・家族と法律	4	① 知識・技能 生涯発達の視点で青年期の課題を理解し、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭としかかとの関わりについて理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 家族や地域のよりよい生活を創造するために、自己の意志決定に基づき、責任を持って行動することや、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見だして課題を解決する解決する力を身に付けている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 青年期の自立と家庭・家族について、課題解決に主体的に取り組んだり、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	学習ノート	1 時間目： 2 時間目： 3 時間目：家族とは何か 4 時間目：家族と法律		・100年後の課題は何か ・家族に関する法律 【憲法、民法、戸籍法】 （公共）
5 月 2 週 目 ～ 6 月 2 週 目	3 章 子供と共に育つ	10	① 知識・技能 乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解している。 乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 子どもの健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見出し課題を解決する力を身に付けている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 子どもの生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んだり、自分や家庭、地域の生活充実向上を図るために実践しようとしている。	学習ノート DVD視聴 保育人形実習 妊婦体験	1 時間目：命を育む 2 時間目：子どもの育つ力を知る。 3～4 時間目：身体、心の発達（DVD） 5～6 時間目：子どもと関わる（折り紙） 7 時間目：これからの保育環境（DVD） 8 時間目：子どもの権利と福祉児童虐待、社会的孤立、子どもの福祉 9～10時間：赤ちゃんがやってくる等の行事	・子育ての責任を地域社会の関りの視点から考える。 ・子育ての問題について話し合う。 ・妊婦体験を行い普段の生活とは異なる点を話し合う。 ・作品に対して、クラス全員が一言感想を記入する。	・身体の発達（保健） ・社会福祉（公共）
6 月 3 週 目 ～ 9 月	6 章 食生活をつくる	16	① 知識・技能 ライフステージに応じた栄養の特徴や健康や環境に配慮した食生活について理解している。 食品の調理上の性質、食品衛生について理解している。 目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 食の安全や食品の調理上の性質、食文化の伝承を学び健康や環境の配慮した食生活について問題を見出し課題を解決する力を身に付けている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	学習ノート DVD視聴 調理実習授業観察 調理実習授業観察	1 時間目：青年期の課題と食生活の変化 2～4 時間目：栄養素について 5～6 時間目：食品の選択 7～8 時間目：食事計画と調理の基礎 9～10時間目：実習（和食（切り方）一汁二菜） 11～12時間寝：日本の食文化と世界の食文化（DVD） 13～14時間目：これからの食生活 15～16時間目：実習（洋食）	・昨日の食事を思い出し学習ノートに記入し、改善点を考える。 ・食品を購入する際の添加物、輸入品の実態を知り、話し合う。 ・一人ひとりの適切な量の栄養素をノートに記入する。 ・班ごととコミュニケーションをとりながらレシピを確認し実習を行う。	・遺伝子組み換え（保健・公共） ・消化の仕組み（生物） ・アミノ酸・脂肪酸（化学） ・食品ロス ・年齢に応じた食事計画

10月 2週目 ～ 10月 4週目	4章 超高齢社会を共に生きる	6	① 知識・技能 高齢者の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解している。 生活支援に関する基礎的な技能を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について、問題を見出し課題を解決する力を身に付けている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 高齢期の生活と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、自分や家庭、地域の生活充実向上を図るために実践しようとしている。	学習ノート	1時間目：超高齢大衆長寿社会の到来 2時間目：高齢者の心身の特徴（DVD） 3時間目：高齢者体験 4時間目：これからの課題 5～6時間目：認知症サポーター養成講座（神栖市長寿介護課）	・身近な高齢者について発表し高齢者の心身の特徴や認知症について話し合う。	・人権の尊重（公共）
11月 1週目 ～ 11月 2週目	5章 共に生き共に支える	4	① 知識・技能 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。 ② 思考・判断・表現 家族や地域及び社会の一員として自覚をもって共に支え合って生活することの重要性について問題を見出し課題を解決する力を身に付けている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 共生社会と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	学習ノート	1時間目：私たちの生活と福祉 2時間目：社会保険の考え方 3時間目：共に生きる（DVD） 4時間目：地域の防災について	・地域社会に住む一員として、少しでも良くするためには何ができるのか話し合う。	
11月 3週目 ～ 1月 3週目	7章 衣生活をつくる	12	① 知識・技能 ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解し、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集、整理ができる。 被服材料、被服構成及び被服衛生について理解し、被服の管理に必要な技能を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 被服の機能や快適性について問題を見だし課題を解決する力を身に付けている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 衣生活について課題の解決に主体的に取り組んだり、自分や家庭、地域の生活の向上を図るために実践しようとしている。	学習ノート 実習	1時間目：被服の役割を考える。 2時間目：被服を入手する。 3時間目：被服を管理する。 4時間目：文化と知恵 5～10時間目：実習（被服製作の基礎） 11～12時間目：これからの衣生活	・今後の衣生活について、消費者として購入から3Rまで考える。	・TPOに応じた衣服 ・環境汚染・再利用
1月 4週目 ～ 2月 1週目	8章 住生活をつくる	4	① 知識・技能 ライフステージに応じた住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解している。 ② 思考・判断・表現 住居の機能性や快適性、住居と地域社会との関りについて問題を見出し課題を解決する力を身に付けている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 住生活と住環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、自分や家庭、地域生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	学習ノート 住居プランニングシート	1時間目：住生活の変遷と住居の機能 2～3時間目：間取り図の読み方 4時間目：安全で快適な住生活の計画	・ひとり暮らしに必要なことを話し合う。 ・間取り図を読み取り、自分の優先順位や生活状況、安全対策等を考えながら住みたい家をグループで話し合う。	・住居の借用、売却（公共）
2月 2週目 ～ 2月 4週目	9章 経済生活を営む	5	① 知識・技能 消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意志決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解しているとともに、生活情報を適切に収集・整理できる。 ② 思考・判断・表現 自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意志決定に基づいて行動することや責任ある消費について問題を見だして課題を解決する力を身に付けている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 消費行動と意志決定について、課題の解決に主体的に取り組んだり、自分や家庭、地域の充実生活の向上を図るために実践しようとしている。	学習ノート DVD視聴	1時間目：情報の収集、比較と意思決定 2時間目：購入、支払いルールと方法 3～4時間目：消費者の権利と責任 5時間目：生涯の経済生活を見直す	・新聞・テレビなどと同じような体験をしながらあるか、どのように解決したかグループで話し合い発表する。	生涯の生活設計 食品 住居 税金とその利用 経済の仕組み（公共）
3月 1週目 ～ 3月 2週目	10章 持続可能な生活	3	① 知識・技能 生活と環境の関りや持続可能な消費について理解している。 ② 思考・判断・表現 持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費について問題を見出し課題を解決する力を身に付けている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 持続可能なライフスタイルと環境について、課題の解決に主体的に取り組んだり、自分や家族、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	学習ノート 消費生活すぐろく	1～2時間目：持続可能な社会を目指して 3時間目：マネープランゲームでお金の流れを知る	・自らの行動が環境汚染につながることを理解し、環境にやさしい行動とは何か、実践できることを話し合う。	・環境汚染（保健・公共）
3月 3週目	11章 これからの生活を創造する	2	① 知識・技能 人の一生について、自己と他者、社会との関りから様々な生き方があることを知り自立した生活を営むために必要な情報の収集・整理を行い、生涯を見通して生活課題に対応し意思決定をしていくことの重要性について理解を深めている。 ② 思考・判断・表現 生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見出して、解決する力を身に付けている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 様々な人と協働し、よりよい社会の構築にに向けて、生涯の生活設計について、課題の解決に主体的に取り組んだり、自分や家族、地域の地域の生活の充実を図るための実践しようとしている。	学習ノート	1～2時間目：生活をデザインする 4月に立てたライフプランを振り返り客観的に見直し、今後の生活にどう生かすか考える。 ふり返り	・各自が学習ノートを確認し、ふり返る。 ・ライフプラン、ライフイベント等を見直し変更があれば訂正する。	
指導時間数の計		70					